

知る 広がる 好きになる

たかつき DAYS

令和2年

6

No.1387

今日の私が、誰かの未来を守る

Interview

高槻で防災に取り組む皆さん



子どもから大人へ、
命を守る知恵を伝えたい。



新聞紙とゴミ袋が少しの工夫で、スリッパとボンチョに変身！幼稚園で防災グッズの作り方を教えていたのは、関西大学の学生団体「KUMC」の皆さんです。この団体は、東日本大震災の発生後、被災地支援を行った学生が中心となって設立されました。

今回、話を伺ったのは、いまや2000人を超えるこの団体の代表を務める、三浦千尋さんです。彼女には、防災に対しての確固たる思いがありました。

高校生の時和太鼓部に所属していた三浦さん。東日本大震災の被災地を訪れてコンサートを開催したことが、大きな転機になったと話します。

「今でも、仮設住宅に住む方の声が残っています。現地で見たこと、聞いたことは、誰かが伝えていかなければ

役に立たないそれが、私の使命だと感じました。

KUMCが防災授業を行うのは、主に小学生などの子どもたちです。まずは子どもたちに防災の大切さを伝えることから。そして、保護者の方の意識も変えていければ、いざという時は、自衛隊や消防隊が来るのを待つより、近所で助け合う方が早いので、知識がある人が少しでもいれば、助けられる命が増えるはずなんです。

大阪府北部地震の時三浦さんは、授業で習った断水への対処法を、周りの友人にもすぐに共有したそうです。地震の体験や知識を、自分だけでなく多くの人に伝えなければ、そう、強い使命感を持つ三浦さんの姿に、社会の一員としての自覚を感じました。

※KUMC=Kansai University Muse for Citizen

Interview

関西大学学生団体
KUMC

代表 三浦千尋さん

高槻で活動するKUMC

■ 市内のイベント

市内の大きなイベントで、ブースを出店を行っています。イベントを訪れる際は、探してみてください。



■ 高槻ミュージックキャンパス祭

関西大学の学園祭で、防災にまつわるプログラムも集まる一大イベント。この日は、多くの市民がキャンパスに集います。KUMCは例年、親子向けのブースを出店中。※今年も中止が決定しています。



■ 防災の出前授業

小学校や幼稚園で、大雨、地震、津波、交通事故についての授業を行っています。子どもたちには、手作り防災グッズのレクチャーや、防災について楽しく学べる絵本や紙芝居も人気。



幼稚園の保護者に向けての防災授業の様子。スライドを使って、ハザードマップの確認や、緊急時の対応について学びます。

1

手作り防災グッズ
-新聞紙で作るスリッパ-



子どもたちでも簡単!



新聞紙を使ってスリッパを手作り。子どもたちは、仕上げのお絵かきに夢中です。楽しんで学んだことが、いざという時に役に立つことでしょう。

2

手作り防災グッズ
-ゴミ袋で作るボンチョ-



ゴミ袋に切れ込みを入れて、最後に開くと、立派なボンチョに変身するので驚き！ 雨風をしのげるだけでなく、保温性もある優れものです。



フードが便利!

≫ 作り方は、市ホームページ、インスタグラム高槻市公式アカウントをチェック!

今日の私が、
誰かの未来を守る

防災への取り組み方は、一つだけではありません。自分らしい方法で、行動を続ける人たちが取材しました。

令和2年2月17日に取材

Interview

防災指導員 糸真由美さん



防災指導員についての問合せ
TEL:072-674-7314(高槻市危機管理室)

「普段 仕事で家を離れている分子どもたちが心配。もしもの時は地域の方の助け合いが大切です」。糸さんは高槻市が地域の防災力を高めるために実施する、防災指導員講習を受講し、防災指導員の資格を取得しました。糸さんが所属する東五百住さま自主防災会では、避難訓練や放水訓練、AEDの講習など、住民が主体となった防災活動を行っています。



バケツリレーによる消火活動の訓練。地域の絆を深め、災害時の助け合いを促す目的もあります。



公民館にて、炊き出しの予行演習。他にも非常食の展示・販売、夜間の避難訓練などの取り組みを行っています。

「近所さんで協力する防災



Interview

IVUSA
関西事務所

深山 恭介さん

学生の力を生かして
地域の防災をサポート

国内外で活躍する学生ボランティア団体「IVUSA」も、高槻市の防災活動の一翼を担っています。関西事務所の職員であり、学生時代にIVUSAで活動した経験もある、深山さんを訪ねました。

「大卒後、一時は救急救命士を目指しましたが、東日本大震災などの経験を通じて、人の命を直接救うのではなく自分の命や大切な人の命を守る人を増やしたい」と思うようになり、IVUSAの職員になる道を選びました。



地震の被害状況を明確にするため行った「負けてたまるか大作戦」。IVUSAの学生も、市社会福祉協議会と協力しながら、二子三宮駅にまわり、計6,000軒以上を訪問しました。

各ボランティア団体と協力しながら、地域のニーズ調査や、被害を受けた家庭の片付けを手伝い、活動をしています。深山さんは次のように考えます。「災害が起きた時は、地域住民のつながりがとても大切。社会人比べて比較的二コ一トアルな立場の学生は、企業や団体、地域などからあまり抵抗感がなく受け入れられるので、コミュニティをうまくハブになりやすい。その特長を生かし、今後も防災活動の役に立てば幸いです」。



被災直後は家の修理が1年待ち、ということも、屋根をブルーシートで応急処置するため、市社会福祉協議会と協力して二子三宮とボランティアのマッチング、在庫の管理などを行いました。

※IVUSAはNPO法人国際ボランティア学生協会(International Volunteer University Student Association)

Interview

防災備蓄収納マスタープランナー

三原 麻弓さん

災害に備えた美しい家作り

阪神淡路大震災の被災経験から「家の片付けイコール物を減らすこと、では災害時に生きていけない」と気付いたんです。三原さん。備蓄のコツは、直射日光が当たらない、押入れや納戸などに入っているものを一度全部出してみる。意外と不要品が多いもの。そこで、防災グッズを置くスペース。家族が1週間、自宅で避難することをイメージしてください。お気に入りの缶詰を探したり、お手頃価格のグッズを集めたり、まずは楽しんで始めることが大切。と三原さん。話を聞いていると「部屋の片付け」と「防災備蓄」。同時にやる気が湧いてきました。



7/1(水)にイベント開催予定！ 詳しくは本誌34ページへ



携帯トイレや給水袋はソファの下に収納。筒状は、防災ポーチに最小限を入れて持ち歩いているそう。



保存食はサイクルを決めて、定期的に見直すことが大切。最近では3~5年持つものも。

「みんなでワイワイ学ぶ防災」

防災と聞いて、気難しく考えることはありません！KUMCが行う防災授業は、大人も子どもも満面の笑顔になる内容ばかり。まずは、遊びながら学べるゲームから始めてみましょう。

ゼロイベントで挑戦してみてください！

関西大学生団体KUMC
代表 三浦千尋さん

親子で取り組む防災ゲーム

「非常用持出袋には、何が必要？」答えに向けて輪をかける輪投げ、大きなパズルを完成させて地形を学ぶハザードマップ風のパズルなど。KUMCでは、工夫を凝らしたゲームを用意しています。



「ライフラインを守る防災」

公民館や学校に、発電機や最低限の食料品などが備蓄されていることありますが、住民全体の生活を保障できるものではありません。一人ひとりの、日頃の備入がとても大切です。

停電対策

停電すると、電化製品はもちろん、トイレやガス機器[※]など、多くのものが使えなくなります。忘れがちなのが、スマートフォンのバッテリー。連絡や情報収集の手段を確保するために、常に充電しておきましょう。LEDの懐中電灯も最低限の備えです。

※一部のトイレ・ガス機器は除きます。

断水対策

一日に必要な飲み水は、一人につき約3リットル。これに加え、その他の生活用水も必要になりますが、トイレ対策としてビニール袋と凝固剤だけは忘れずに！



解説！ Let's try できる防災対策

「街をよく知っておく防災」

「防災」のエキスパートになる必要はなく、「自分のエキスパートになれば良い」のです。自分の家が、どんな立地にあるのか？避難場所はどこにあるのか？具体的な場面を想定し、必要な情報を集めておきましょう。

ハザードマップをよ〜く確認する

水害のハザードマップには、川の氾濫による外水氾濫、下水から雨水があふれる内水氾濫、さらに土砂災害の3つがあります。「家の近くに川はないから大丈夫」ではなく、しっかり確認を。
▶▶ 本誌11ページに関連記事

公園の防災機能

公園で地域の方と交流することは、災害時の助け合いを後押しします。公園で行われる防災訓練も要チェックです！



ご近所さんとの挨拶も大切ですよ！

IVUSA 関西事務所
深山 恭介さん

「家がスツキリ！収納する防災」

災害時、自宅に被害が少なかった場合、多くの人は自宅での避難生活が求められます。家で避難生活ができるだけ快適にするには？地震発生後のことを、具体的にイメージしてみましょう。

お気に入りの保存食探し

缶詰やパウチなど、バラエティーに富む保存食は、集め出すと楽しい！普段の食事に活用しながら、お気に入りの保存食を探しましょう。



ご近所さんとの挨拶も大切ですよ！
防災備蓄収納マスタープランナー
三原 麻弓さん

災害時に安全な家作り

いくら安全でも、殺風景な部屋は寂しいもの。落ちると危ない置物は、普段いる場所、枕元を避けるだけでも効果があります。写真のフレームなど、割れると危ないものをプラスチック製に変えておくのも◎。



Instagram高槻市公式アカウントで『たかつきDAYS』6月号のこぼれ話を配信信中！